

項目	目標	取組状況(内容・プロセス・結果)H20年度は別添1参照	課題
ネットワークの構成	<p>・自殺が地域の課題であるとの認識を共有した上で、自殺予防の方策について検討・協議し、ネットワークの構築を図ることで、自殺予防活動の基盤を形成する。</p>	<p>・NPOライフリンクとの協定(5/26)                      ・庁内連絡会の開催(H20年度3回、H21年度3回予定)                      ・区内外の関係機関からなるネットワーク会議開催予定(H21.9月、H22.2月)                      【関連団体】医師会、弁護士会、社会福祉協議会、民生・児童委員、健康づくり推進員、東京自殺防止センター、区内精神病院【官公署】警察署、消防署、ハローワーク足立、労働基準監督署、地域産業保健センター、都立精神保健福祉センター                      【区関係部】区政相談、納税、国民健康保険等12課</p>	<p>・H21年度 区内外の関係機関からなるネットワーク会議の開催。</p>
ネットワークの機能連携方法	<p>・連携をするためのしくみが整備されている。                      ・具体的な対応事例に応じた連携が取られている。</p>	<p>・庁内ネットワークにおいて、参加機関一覧及び担当者一覧を作成した。                      ・医療機関、精神障害者社会復帰施設等で実施している精神保健福祉ネットワークとの連携。                      ・地域ケア会議(各保健総合センターで実施のケース検討会にて精神科医も交え個別検討会を実施し、関係機関連携し対応)</p>	<p>・ケースの連絡、引継ぎをより円滑にするためには、共通の相談シートの作成等必要か                      ・庁内各課での対応事例の内容や件数の把握。</p>
相談対応の質の向上 人材育成	<p>・自殺対策が重要課題として認識されている。                      ・質の向上を図るための研修機会の確保、マニュアル等の作成・普及がされている。</p>	<p>【ゲートキーパー研修】                      H20年度 職員向け2回118名 フォロー研修1回50人                      H21年度 区長、区議、全管理職、職員 300名                      *自殺に対する認識の変化あり。                      別紙アンケート別添2参照                      10月 民生委員、健康づくり推進員、包括支援センタースタッフ対象実施予定</p>	<p>・足立区版ゲートキーパー手帳及び相談窓口担当職員用「相談の進め方(マニュアル)」作成                      ・研修効果についての評価</p>
相談機関で関わる支援者への支援	<p>・自殺に関する相談に応じるための研修やスーパーバイズを受ける機会等が確保されている。</p>	<p>・地域ケア会議(各保健総合センターで実施のケース検討会にて精神科医も交え個別検討会を実施し、関係機関連携し対応)</p>	<p>・相談員同士の情報交換、連絡会の設定</p>
区民への周知	<p>・区の自殺対策への取組について認識されている。                      ・悩みや問題に応じた相談機関について周知されている</p>	<p>・H20年度 別添1参照                      ・H21年度 6月27日シンポジウム「自殺による死別の痛みを抱えて」                      ・区広報紙「自殺対策特集」(2月)、パネルを作成し、各イベントで周知</p>	<p>・中学生、高校生等の若い世代への啓発活動について学校と連携し取り組むことが必要。</p>

参加無料

大切な人を自殺で亡くした時  
その痛みを抱えながらどう生きていけばいいのか  
安心して痛みと向き合うことのできる社会を  
どう築いていけばいいのか  
今回のシンポジウムでは  
日本の自殺対策のきっかけを作った  
自殺遺児(親を自殺で亡くした子ども)たちの歩みを  
振り返りながら考えていきます

# 自殺による死別の痛みを抱えて

～ 自殺遺児たちの歩み、そして～

【日時】 2009年6月27日(土) 13時(開場)  
13時30分～16時30分

【場所】 シアター1010 (北千住駅西口マールイ11階)

主催： 足立区、NPO法人ライオンク  
協賛： 日本財団  
登壇： 上田 紀行 (東京工業大学大学院准教授、文化人類学者、「生きる意味」著者)  
清水 康之 (NPO法人 自殺対策支援センター ライオンク代表)  
山口 和浩 (NPO法人 自殺遺族支援ネットワーク Re:代表)  
展示： 「自殺遺族語る」パネルのロビー展示

## 【次 第】(予定)

13:30～	開会式	開会のことば(近藤やよい足立区長)
13:45～	第一部	自殺遺児の体験談
14:15～	第二部	自殺遺族の実情と遺児たちの歩み
14:40～	(休憩)	
15:00～	第三部	シンポジウム(上田紀行×清水康之×山口和浩)
16:20～	閉会式	足立区「分かち合いの会」の紹介と参加への呼びかけ

問合せ： 足立区衛生部衛生管理課  
NPO法人ライオンク

電話：03-3880-5111(代)内線2111から2113  
電話：03-3261-4934

FAX：03-3880-5602  
Mail: adachi@lifelink.or.jp

## 地域自殺対策の新たなモデル事業を実施します ～身近な地域単位での自殺防止のネットワークづくりに向けて～

都内では年間2,800人の方が自殺しており、その背景には、多重債務、いじめ、過労、健康問題、家庭問題など多様な複合的な要因があります。自殺を未然に防ぐためには、自殺の危険を早期に見出し、悩みに応じた様々な相談・支援を円滑に受けられるネットワークづくりが不可欠です。

東京都では、自殺防止に向け、本年2月に、都全域を対象として「ここところのうちの相談・支援 東京ネットワーク」を立ち上げたところです。今年度、身近な地域での相談や支援のためのしくみづくりをめざして、足立区をモデル地区とした新しい取組を実施することとしました。

- 1 事業名            ここところのうちの相談・支援 東京ネットワークモデル事業
- 2 事業目的        自殺の未然防止を図るため、自殺念慮者や未遂者、自死遺族等が、その悩みに応じた相談・支援を円滑に受けられるよう、地域における関係機関等のネットワークを構築する。
- 3 実施方法        東京都から足立区への委託により実施
- 4 実施期間        平成20・21年度（2か年）
- 5 実施内容（予定）
  - （1） 各種の相談機関等が連携した自殺防止のための相談支援ネットワークづくり
  - （2） 自殺防止と相談支援のための人材育成・研修
  - （3） 区民への相談機関の周知※ 相談支援ネットワークのイメージは裏面のとおり

### 【問い合わせ先】

東京都福祉保健局保健政策部保健政策課  
電話 03-5320-4310

## 足立区こころといのちの相談支援ネットワークのイメージ

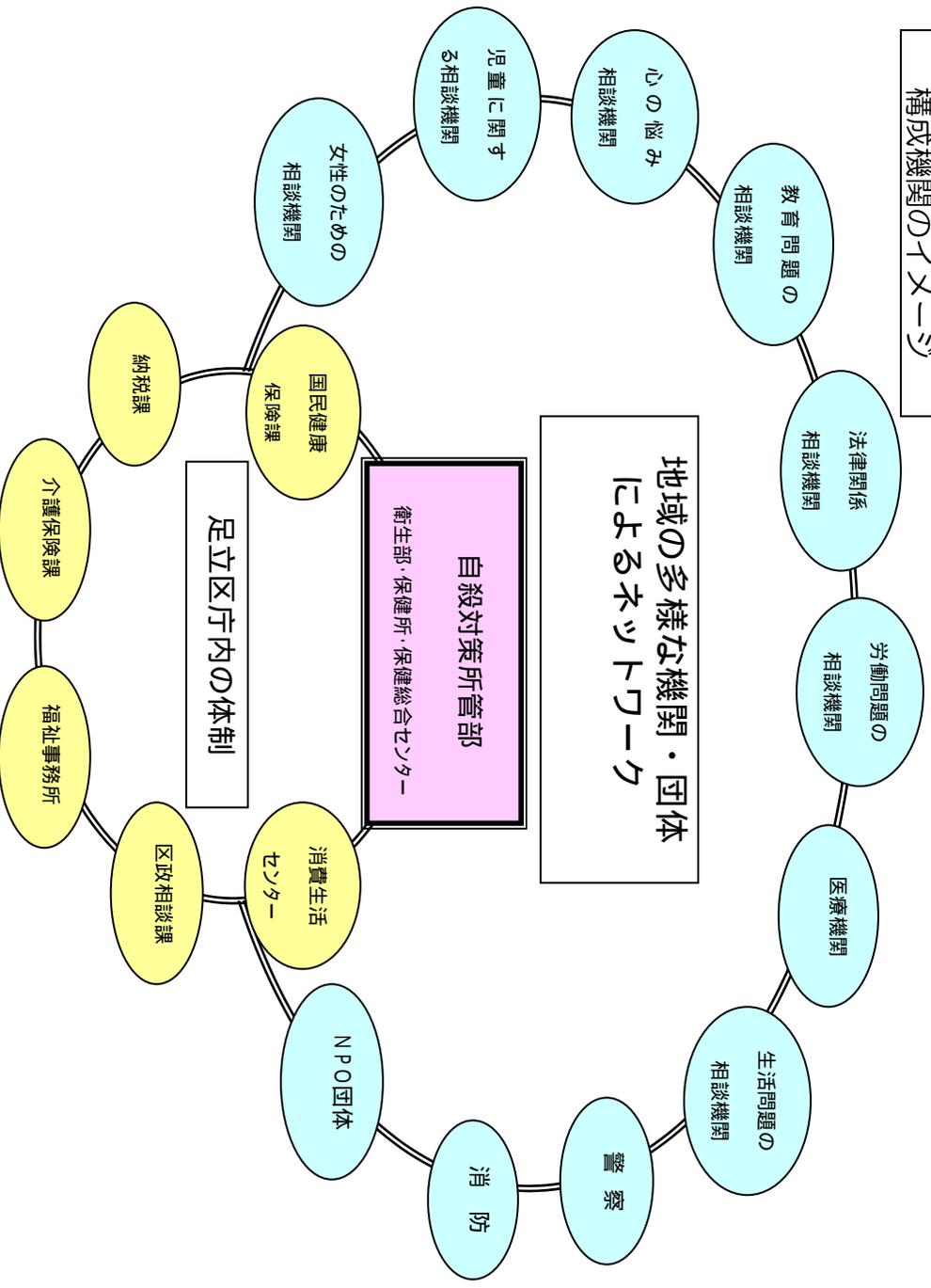
### ねらい

- 自殺の危険のある人に早期に気づき、支援につなぐため、様々な悩みをもつ区民がどの窓口を最初に訪れても、適切な専門機関へと確実につなぎ、解決への橋渡しを行える「相談窓口のネットワーク」を構築する。
- 相談窓口同士が円滑に情報交換するとともに、各窓口における対応能力を向上させる。

### 実施内容(例)

- 各相談機関による定期的な情報交換会
- 相談担当者を対象とした自殺の背景やサインの理解、自殺念慮者への支援等に関する研修実施
- 相談機関一覧の作成と関係機関等への周知
- 区民への自殺の問題やうつ病等の精神疾患への正しい理解を促す普及啓発

### 構成機関のイメージ



平成20年度足立区こころのちの相談支援事業実績（平成20年10月～）

## 1 庁内ネットワークの構築

庁内連携の強化を図るため、庁内の関係所管\* からなる庁内連絡会を3回開催。  
（10月28日、12月11日、2月24日）

\*区政相談課、戸籍住民課、納税課、国民保険課、消費者センター、福祉管理課、高齢サービス課、介護保険課、北部福祉事務所、教育政策課、教育相談センター、中央本町保健総合センター、竹の塚保健総合センター13所管

## 2 研修

### （1）ゲートキーパー研修

職員のスキルアップのため研修を2回実施

対象：相談窓口職員、保健所、福祉事務所等職員

講師：清水康之氏（NPO法人自殺対策支援センター・クリカ）  
、自死遺族の会

熊谷直樹氏（都多摩精神保健福祉センター保健福祉部長）

参加人数：11月27日（53人）、12月9日（65人）

※2回ともアンケート調査を実施（自殺に対するイメージが変わった…8割以上、自殺対策の必要性への理解…約10割など）

### （2）ゲートキーパーフォロー研修（うつ・自殺相談研修）

グループワークを取り入れた、より実践的な研修を実施。

対象：ゲートキーパー研修修了者

講師：西原由記子氏（国際センター・東京自殺防止センター創設者）

参加人数：50人

## 3 啓発活動

### （1）啓発用知-ガイ 「気づく つながる いのちを守る」（啓発グッズ等に記載）

### （2）区広報 広報紙（2/25号）、区ホームページ

### （3）懸垂幕 本庁舎前ロータリーに掲示（3月9日～31日）

### （4）啓発用リーフレット 5000部作成。庁内窓口（区政相談課、納税課等）、精神保健福祉 ネットワーク連絡会（約60機関）、ハローワーク足立、介護サービス事 業者（約500機関）等に配布。

### （5）イベント こころの健康フェスティバル（3月7日）内に、こころのちのちの相 談支援コーナーを出展。自死遺族や足立区の自殺の現状等のパネル展 示、区民向けアンケートを実施（213名）

## 4 主な報道

平成20年11月28日付 朝日新聞「住民自殺防止対策にゲートキーパー研修」

平成20年12月10日付 読売新聞「自殺の兆候 見抜く研修」

平成21年2月21日 TBSサタデーずばっと「ゲートキーパー命の門番とは」

平成21年3月13日 NHK特報首都圏「足立区の自殺予防対策の取組」など

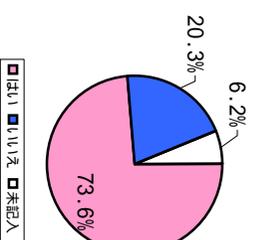
問1 今回の研修を受ける前についてお尋ねします。  
自殺対策に対してのイメージ、認識はどのようなものでしたか？

自殺そのものに対するイメージを記入した人も多く。身勝手なこと。良くないこと。弱い人がする。個人の選択だから仕方が無い。といった回答が多かった。  
自殺対策についての、代表的な回答は次のとおり。

- 特に意識したことはない。具体的なイメージはない。
  - 自殺を考えている人に、個人が、行政が、できることがあるのか。対策として何をすれば良いのか分からない、難しい。
  - 専門の人が行っていることをニュースで見る程度。自分と関わりの無いこと。他人事である。
  - 精神疾患（うつ病含む）対策 = 自殺対策ととらえていた。
- その他の回答としては次のようなものがあった。
- 他の研修で、清水氏の講義を受けたことがあるので、多少の認識はありました。
  - 追い詰められた人の気持ちを思うと、他人事ではないと思っていました。
  - 2ヶ月前前のNHKテレビを見ていたので、各部と連携して少しでも自殺者を救うという認識はあった。
  - 悩んでいる人には声をかけ、少しでも援助できればと考えていました。

問2 今回の研修を受けて、そのイメージ、認識は変わりましたか？

はい	いいえ	未記入	合計
203	56	17	276



問3 はいの方 どのような認識に変わりましたか？

自殺について、個人の選択による死ではなく、追い込まれた結果で、本当は生きたかったということ。また、誰にでも起こりうるものである。といった回答が多かった。  
自殺対策についての、代表的な回答は次のとおり。

- 「自殺」に対する偏見を取り除く必要があること。
  - 組織のわくを越え、地域のわくを越えたネットワークの形成が必要。
  - 行政、民間の様々な機関が連携して取り組む必要がある課題だと感じた。
  - 自殺は予防できる！！まわりの人の気づきが大切。
  - 真剣に取り組んでいる自治体では、効果が上がっていることが分かった。
- その他の回答としては次のようなものがあった。
- 「うつ」に至る原因を取り除くことが必要。
  - 私たちができることがあるなら、積極的に取り組まなくてはならないと感じた。